

# JMSCA山岳自然の集い2023 報告

11月23日午後12時30分より「全国自然保護委員長会議および山岳自然の集い」(以下「集い」)を開催した。コロナ禍で2年続けてオンライン開催であったが、今回はJ S O Sビル会議室での対面とオンライン併用により、全国27の都道府県から50名の連盟・協会の自然保護委員長および自然保護指導員の参加があった。

会議の冒頭、2021年の集いで全国の自然保護委員会の地道な山岳環境保護・保全活動をアピールするために決議され、沖縄県からスタートした『登山月報』のリリース掲載がこれまで20県途切れることなく掲載されていることが報告され、最終の北海道まで連載していくことが改めて確認された。続いて、事前に参加の都合のつかない3県も含めた20都道府県自然保護委員会から提出された2022年度集い以降の活動報告書を整理、活動分野毎に概観した。

- ①「登山道整備」に関し、昨今の気象災害やオーバーユースによる洗掘や階段・路肩の崩れなど登山道の崩壊は著しく、急ぎ整備しなければ危険な山道、道迷いが起こりそうな勝手道も目立つが、何処の山にも地権者がおり、整備許可申請を如何に円滑に行うか、また整備方法として近年脚光を浴びている「近自然工法」の技術習得の研修会や整備にかかる費用捻出のための補助金申請に苦慮しているとの報告が多数あり、いずれも自然保護委員会単体ではなく、岳連内の他の委員会、市民団体や行政をも巻き込んで事業を進めている。
- ②「植生保護」に関し、コロナで活動が停滞していた間に温暖化の影響もあり保護対象の生育環境が大きく変化してしまったという報告、一方コロナ禍でも絶滅危惧種の調査や保護の一環として外来種の駆除活

動を進め成果を実感しているとの報告もあった。この活動も継続的に実践していくために地域や行政と連携することが必須であることが強く読み取れた。

- ③「観察会」に関しては、一般市民を対象にした観察会の報告が多い中、バリエーションルートでの「岳人ならではの観察会」や少年少女登山教室も併せて大人数での観察会実施、広い山域を繋げての大規模に開催された観察会の報告もあり、これらも行政やレンジャーと協働、補完し合う関係で活動が継続されている。
- ④「研修及び認定作業等々」。自然保護指導員が研鑽を重ねるための研修会を単体の委員会ではなくブロック単位で持ち回りで開いているとの報告、岳連の他の委員会と協力して自然保護だけでなく登山技術の向上、遭難防止や安全登山の啓発も含め、コーチ資格や夏山リーダー資格も併せ指導員の資格を拡充させ委員会活動の活発化を図ろうとしている。

コロナ禍3年に及ぶ活動の停滞後、各県様々な問題を抱えながらも活動を再開された様子が伝えられた。

代理を含む出席頂いた自然保護委員長からの自己紹介及び報告フォームに記載しきれなかった各種の問題点などを提議頂いた後、特徴的な3つの委員会からの報告を受けた。千葉岳連では2019年の度重なる台風被害で壊滅的な影響を受けた登山道を岳連、労山、日本山岳会等々で「房総の山復興プロジェクト」を結成し再生に当たっているとの報告、徳島県での近自然工法による登山道整備を試験的に行い本格的活動の準備を進めていたが、助成金申請の窓口担当者が代わり承認がもらえず活動が止まっている状況との報告、鳥取県からは大山での一木一石運動は全国的に知られた活動で



全国自然保護委員長会議



山岳自然の集い

山頂の植生回復も成果を上げている。また、中国5県ブロックの自然保護研修会を当番県として開催、自然保護委員以外の方々も参加され、行政や地元企業の協力を得ることができたとの報告があった。いずれも全国至る所の山域で、あるいは地方岳連に共通する課題であり、その後の質疑や会議外での雑談の中でも繰り返し話題となった事例である。

今回のメイン企画は、「登山行為がもたらした浸食や裸地化した登山道における登山者自身による保全活動」と題した基調講演。長年に渡り飯豊・朝日連峰の登山道を若者を含めた登山者を組織して護ってこられた山形岳連井上邦彦理事長から、高山帯と樹林帯における具体的な工法、一般登山者との協働作業、日本における登山道維持管理の課題と留意点を中心に大変興味深いご講演を頂いた。荒れた登山道をどう整備していくかは各地で問題となっており、出席者から出された様々な質問に対して経験に基づいた具体的な回答を頂き、活動を大きく前進させる示唆となった（なお、井上講師への追加質問もお受け頂けます。連絡先を講演の抄録とともにJMSCAのWEBに掲載します）。

さらに会議は「自然保護指導員制度」についての改革案についての討議に進んだ。現在JMSCA自然保護委員

会（委員会）では規約改正も含めて自然保護指導員制度の見直し作業を行っているが、その検討状況をWGリーダーの山本委員から説明があり、委員会が提案する制度改革案につき質疑応答を行い、概ね改革の方向性につき理解を得られた。今後は規約改正を含む具体的な改革を委員会で検討していくこととなった。

制度改革の議論中にはお出かけ先からオンライン参加されたJMSCA丸誠一郎会長からも、現在世界中の登山界で「自然保護」の存在価値は大きく、全国の自然保護指導員の活動に期待を寄せているとのメッセージが贈られ、最後は前田主管理事からJMSCAの現状報告も含めたご挨拶を頂き、予定の議事を終了した。

＊

翌24日、4年ぶりにエクスカージョンが復活。秩父多摩甲斐国立公園の特別保護地域として保護されている奥多摩三頭山と現在再開発問題で揺れている『外苑』も含めた神宮の森で、それぞれ「自然」の利用と保護について語り合った。

（自然保護委員長 小高令子）

## 2023年度全国自然保護委員長会議及び第47回山岳自然の集い

日時：2023年11月23日（木）12：30～17：30（JSOS 30x会議室 及びZoomによるWEB会議）

### I . 2023年度全国自然保護委員長会議 〈12:30～〉

1. JMSCA委員長挨拶/報告 自然保護委員会 委員長小高 令子
2. 参加自然保護委員長挨拶
3. 主要活動報告紹介
4. その他・情報共有

### II . 第47回山岳自然の集い 〈13:45～〉 （司会：自然保護委員会 常任委員 猪狩ノブ）

1. 開会宣言 自然保護委員会 常任委員 小島和徳
2. 主催者挨拶 JMSCA 会長 丸誠一郎
3. 基調講演

「登山行為がもたらした浸食や裸地化した登山道における登山者自身による保全活動」

〈講演〉 井上 邦彦（いのうえ くにひこ）様

〈質疑応答〉 参加者全員

〈全体討議〉

〈講師コメント&まとめ〉

井上 邦彦、岡田 博行

〈連絡①：講演内容への問い合わせ、資料等の取り扱い〉

◀ 休憩 ▶

#### 4. 「自然保護指導員について」

〈検討ワーキンググループからの改定案検討状況〉

自然保護委員会 常任委員 山本 憲彦

〈全体討議〉 参加者全員

〈まとめ〉 山本 憲彦、小高 令子

〈連絡②：24日のエクスカージョンについて〉

#### 5. 閉会挨拶 JMSCA 自然保護委員会 主管理事 前田善彦

終了予定 〈17:30〉